

兵庫県産の植物図 (14) ブナ科 Fagaceae (2)

矢内 正弘

Masahiro YANAI : Illustrations of plants in Hyogo Prefecture (14) (Fagaceae)

ブナ科 (1) (2011) の続きである。ただコバノチョウセンエノキ (ニレ科) はブナ科ではないが、図の関係で矢内 (2009) で省かれていたものである。

図7 シラカシ *Quercus myrsinaefolia* Blume

花 : 神崎郡大河内町宮野 May 12 1985 MY3688。果実 : 吉川町奥谷 Oct. 11 1999 MY31735。淡路島を除いて全県的に分布する常緑高木。次種と共に名前の通り葉裏はやや白い。小枝は黒っぽい。次種は灰褐色で少し異なる。雄花序は新枝の基部付近に垂れ下がる。軸にも短毛が多く、花被片は数個に分かれ同じく短毛が目立つ。雄花は長さ3mm、花床には長毛が多くある。雄しべは数本、花糸は無毛。雌花序は枝の先端につき、数個。苞があり、花被片も鱗片状につく。柱頭は3。Aは8月の若い果実、高さ8mm。10月になると果実は完成する。即ち1年成。殻斗はお椀型、数層の輪が並ぶ。果実は高さ2cm。

ウラジロガシ *Quercus salicina* Blume 花 : 神崎郡福崎町七種の滝 May 23 1993 MY16422。冬芽 : 宍粟郡波賀町音水 Nov. 10 1985 MY3693。前種よりも少し高い場所に生育する。若い枝には灰褐色の短毛が目立つ。また早落性の長さ1cmを超える托葉がある。冬芽は長さ5~9mm、鱗片は長さ1~3mm、微小な綿毛がおおわれる。雄花序は新枝付近にぶら下がる。軸には短毛が多い。苞には長毛が目立つ。雄花は花被片は切れ込み、長毛がたくさん見られる。雄しべは数本あり、花被片よりも突き出る。雌花序は枝の先付近につき雌花は数個ある。微小な苞と微小な鱗片に包まれた雌花がある。柱頭は3に分かれる。果実、Bは開花から1年後の様子で径3mmほど、3柱頭は残っている。あと半年で果実は完成する。即ち2年成。果実は高さ22mm、全種と同じ皿がつく。なお「六甲山のブナとイヌブナ林」神戸市立教育研究所 (昭和57年) P53のウラジロガシとシラカシの枝の色は反対と考えられる。

図8 アベマキ *Quercus variabilis* Blume 花 : 姫路市姫山公園土手 栽培 April 15 2007 MY44575。

果実 : 姫路市増位山 Sept. 1 2006 MY44336。淡路島にはクヌギがたくさん見られるが、アベマキは産しない。托葉は長さ2cmあり褐色、軟毛が多い。落下しやすくすぐに落ちる。葉裏は白い。幹はコルク層がよく発達し樹皮は分厚い。新枝の基部に多数の雄花序をぶら下がる。それは長さ4~8cm、黄緑色、軸にはちじれた軟毛が多い。花被片は長さ2mm、中に3か4個の雄しべを含む。雄しべは長さ3mm、無毛。果実は2年で成熟する。Aは開花後、半年たつ。ほとんどその大きさを翌春まですごす。受粉から成熟したドングリができるまで約20日を要する。

図9 イチイガシ *Quercus gilva* Blume 花 : 神崎郡福崎町山崎、二宮神社 May 23 2009 MY45148。果実 : 同所 Oct 13 2009 MY45215。植物目録2には3例あがっているが、もともと栽培?この神社では高さ20~30mの大木が数本ある。福崎高校の北西の神社にもこの大木が見られる。冬芽は長さ4mmうす茶褐色の微毛が多い。新枝や葉の裏面には白灰黄色の星状毛がたくさん見られる (イ)。葉の上半分には鋭い鋸歯がつく。表面には少ないが同様の毛がつく。雄花序は新枝の先端に多数ぶら下がる。長さ4~10cm、雄花は短毛が多い三角形の苞と大きく切れ込んだ鱗片、その中に数本の雄しべがつく。雌しべは枝先に数個つく。3柱頭があり、鱗片状の花被片が数枚かこむ。果実になってもその枝の星状毛が残っている。枝先に2~5個つく。殻斗を含めて高さ18mm。殻斗は数段つき微毛がピロ~ド状に密生。果実は縦に線模様が見られる。下面から見るとへそは1/2 (ア)。果実は1年成。

ツクバネガシ *Quercus sessilifolia* Blume 花 : 猪名川町民田 April 24 2009 T. Ushijima20039。果実 : 同地、同木 Sept. 5 2009 T. Ushijima20048。雄花序は新枝の基部付近につき、雌花は先端付近に数少し付ける。雄花序は長さ5~8cmにぶら下がる。その軸は軟らかい長毛がつき、褐色の鱗片や鋸歯が多くややうすい苞が見られる。それらには長毛が多い。葉はぶ厚く、表面、光沢があり、先1/4~1/5に鋸歯が出る。裏面の主脈は目立つ。へりは裏面に曲がる (ア) のがこの種の特徴の一つである。20048では枝先に見られるものは若い果実で赤褐色の柱頭が3つつく。長さ3mm、まだあまり大きくなっていない。大きな果

実はそれから15~25cm下部にある。殻斗はおわん型で絹灰色の細い毛、やや光沢があり、数段にしきりがつく。径12mm。果実は2年成。

図10 **カシワ** *Quercus dentata* Thunb. ex Murray

花序：美方郡美方町，蘇部岳 June 9 2009 MY & A. Matsunaga45151。果実は同所でひらう。県内ではそう多くない落葉高木。葉は大きく、30cmにもなり、裏面には短毛や星状毛が多い。葉は餅などを包むのに使用する。冬芽の鱗片は長さ1~2cm、微毛が多い。枝は太い、新枝は短毛や星状毛が密生。花序は枝先につき、雄花序は長さ4~8cmでぶら下がる。その軸には微毛が見られる。花序付近には軟毛が多い鱗片が落ちかかるのが多数見られる。雄花の花被は数個に分かれ、これにも長い軟毛がつく。雄しべは5~8個含まれ、葯にも微毛がつく。花糸は葯よりも短い。雌しべは枝先に数個つき、柱頭は3に分かれる。それは赤褐色、その周囲には微毛がついた鱗片が多数取り囲む。長さ2~6mmある。殻斗は径27mm、幅1~2mmの鱗片が多数、ドングリを包み込む。果実は高さ25mm。果実は1年成。

図11 **アカガシ** *Quercus acuta* Thunb. ex Murray

花：神戸市摩耶山 June 30 1957 S.Iwatani57080。果実：相生市三濃山 Nov. 3 1994 MY22520。常緑高木、人家にもよく植えられる。冬芽は大きく長さ10mm程度。葉は大きいものでは柄も含めて長さ20cm、新枝には茶褐色の縮れた毛が多い。葉はほとんど全縁。葉柄は長くて15~35mm(類似のツクバネガシは葉柄は2cm以下、先端部分にわずかに鋸歯が見られる)。新葉付近には托葉が見られる。それは長さ1~2cm、軟らかく、早落性。雄花序は新枝の下部に垂れ下がり、5~10cm、その軸にも軟らかい茶色の毛が目立つ。長さ4mmの苞の下に2~3個の雄花がぶら下がる。花被は切れ込み茶色の微毛におおわれる。雄しべは10個前後、花糸は無毛。雌花序は新枝の上部に数個つき雌花は数個の鱗片に包まれ、柱頭は3。雄花同様に茶色の微毛が多い。果実は2年成。果実は高さ2cm内外、殻斗は輪が数個つき、微細な毛が見られる。果実は数個くつつく。

イヌブナ *Fagus japonica* Maxim. 花：美方郡浜坂

町久斗山 April 19 2003 H.Nakazawa2646。果実：養父郡八鹿町石原小佐川 Sept. 28 1995 Fukuoka, Kurosaki, Miyake9251。植物目録2にはたくさん記載されているが、花や果実のつたいいい標本は少ない。春、新枝に若葉とともに雄花、雌花をまばらにつける。托葉は茶色、長さ2~3cm早く落下する。新葉は柔らかい長毛が多い。ブナは成葉になると葉裏面は無毛だが、イヌブナは裏面にこの長毛が残る。雄花の柄は下にさがり、長さ3~5cm、先端に径1cmほどの雄花序をつける。軟らかい白毛が多い。10個前後の花が集

まる。壺状の花被、鈍頭、背側には微毛が多い。10本を超える雄しべが見られる。雌花は上向き、その柄は3~4cm、4mmの総苞に包まれて2個の雌花が見られる花被片は長さ1mm、数枚。子房を包む鱗片は微小。柱頭は3。秋になると、1cmばかりの果実ができる。それは3稜形。総苞は3か4片、背面に刺が出る。1年成。

図12 **ブナ** *Fagus crenata* Blume 花：宍粟郡波

賀町氷ノ山 May 15 1993 MY16478。果実：城崎郡日高町稲葉 Aug. 12 2003 MY & H. Inoue42129。県内ではおよそ800m alt.以上に出てくる。5月に花序が新葉とともに出る。雄花序は枝の下部に長い柄でぶら下がり、その柄は長さ3~5cmもあり、長い軟毛が目立つ。途中に線形の苞がつく。雄花序は約15個の花からなり、花被は蓑笠状に6に分かれ切れ込む。外側には長軟毛が多い。内側は無毛。葯は黄色。12本つく。雌花序は枝先にやや上向き、柄は太くて長さ5~10mmあり、それにも長軟毛が密生する。雌花はたくさんの線状の苞に包まれる。苞は長さ10mm弱、褐色で軟毛が多くある。総苞の中に2雌花があり、子房は3稜ある卵形、そのまわりの花被片は長さ1mmで6個見られる。柱頭は3、そりかえり細毛が見られる。

果実は長さ15mm、やや細長い球形、周囲には褐色の毛が目立つ。その毛には微毛が見られる。果実には2個の種子を含む。それは褐色、3稜、長さ13mm。果実は1年成。

ニレ科 Ulmaceae **コバノチョウセンエノキ** *Celtis*

biondii Pampan. 花：神戸市北区こうもり谷 April 19 1992 Fukuoka, Kurosaki, Miyake14074。実：養父郡大屋町由良 Sept. 12 1993 Fukuoka, Kurosaki, Miyake6448。冬芽は荒い長毛が目立つ(エノキはわずかに微毛が見られる)。果実の柄が10~15mm(エノキは10mm以下)その他、葉の表面に短毛が目立つ。花は両性花と雄しべ4本のみの雄花が見られるが、時にA図のように雄しべが4本で雌しべが退化した雄花も見られる。

参考文献

- 神戸の自然研究グループ. 1982. 六甲山のブナとイヌブナ林. 53pp. 神戸市立教育研究所, 神戸.
矢内正弘. 2009. 兵庫県産の植物図(ヤマモモ科・クルミ科・ニレ科). 兵庫生物, 13(5): 265-274.
矢内正弘. 2011. 兵庫県産の植物図(ブナ科1). 兵庫生物, 14(2): 87-94.

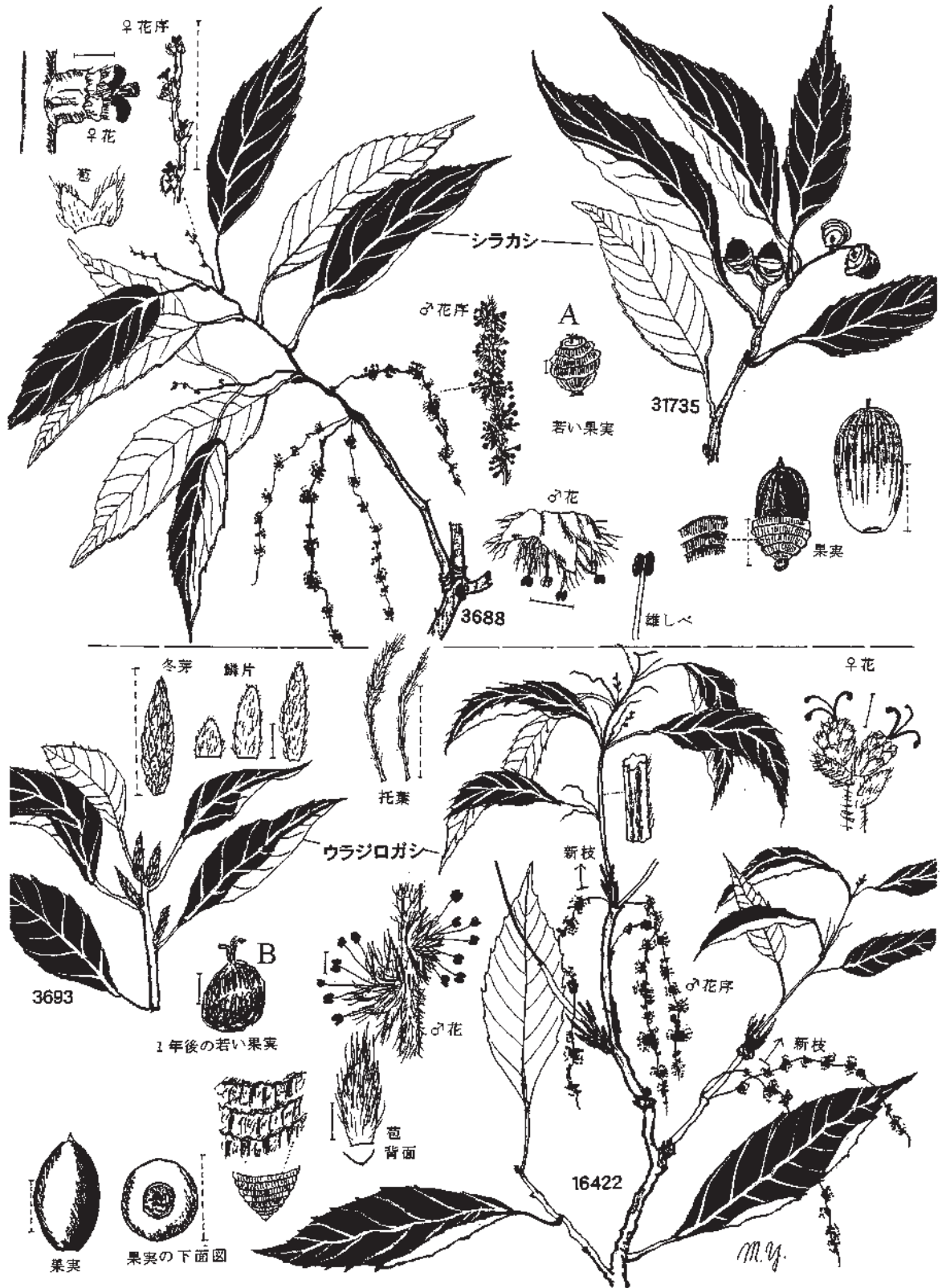


図7 シラカシ(上) ウラジログシ(下)



図8 アベマキ

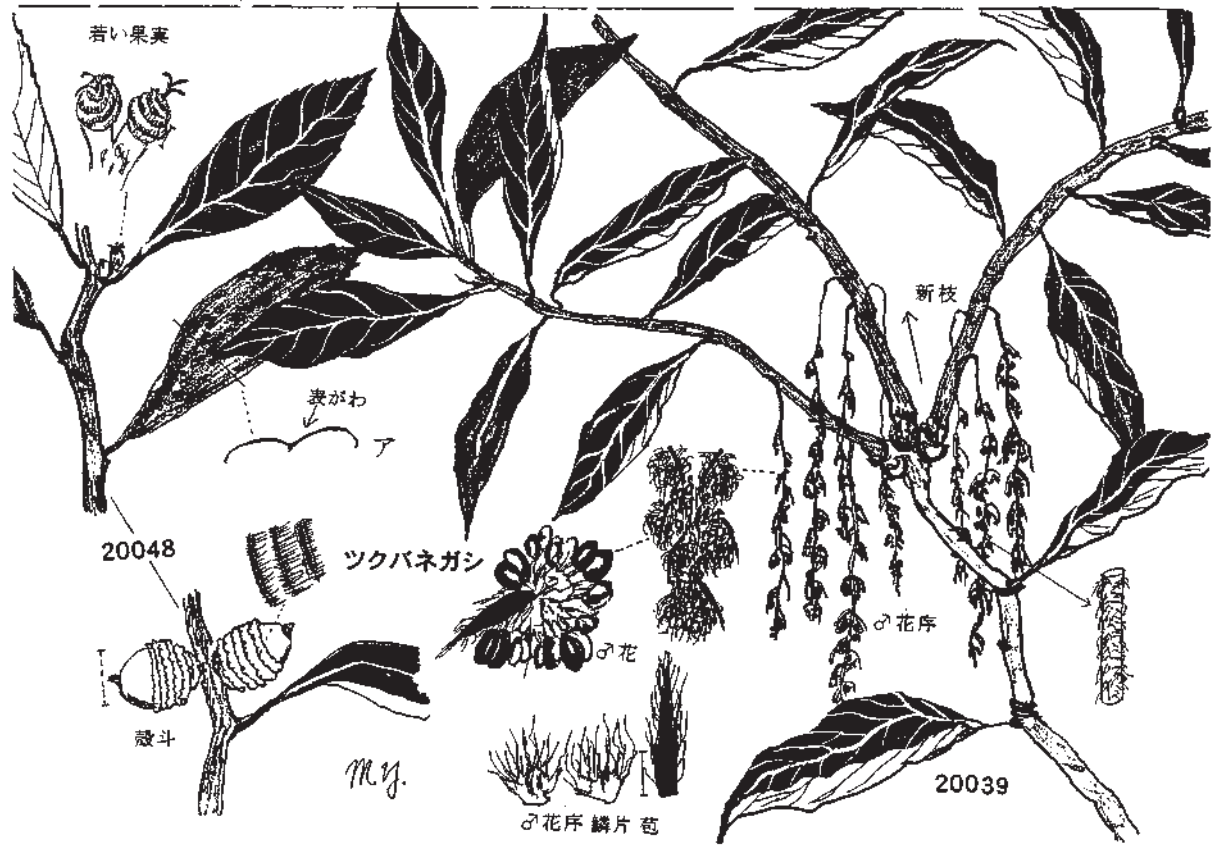
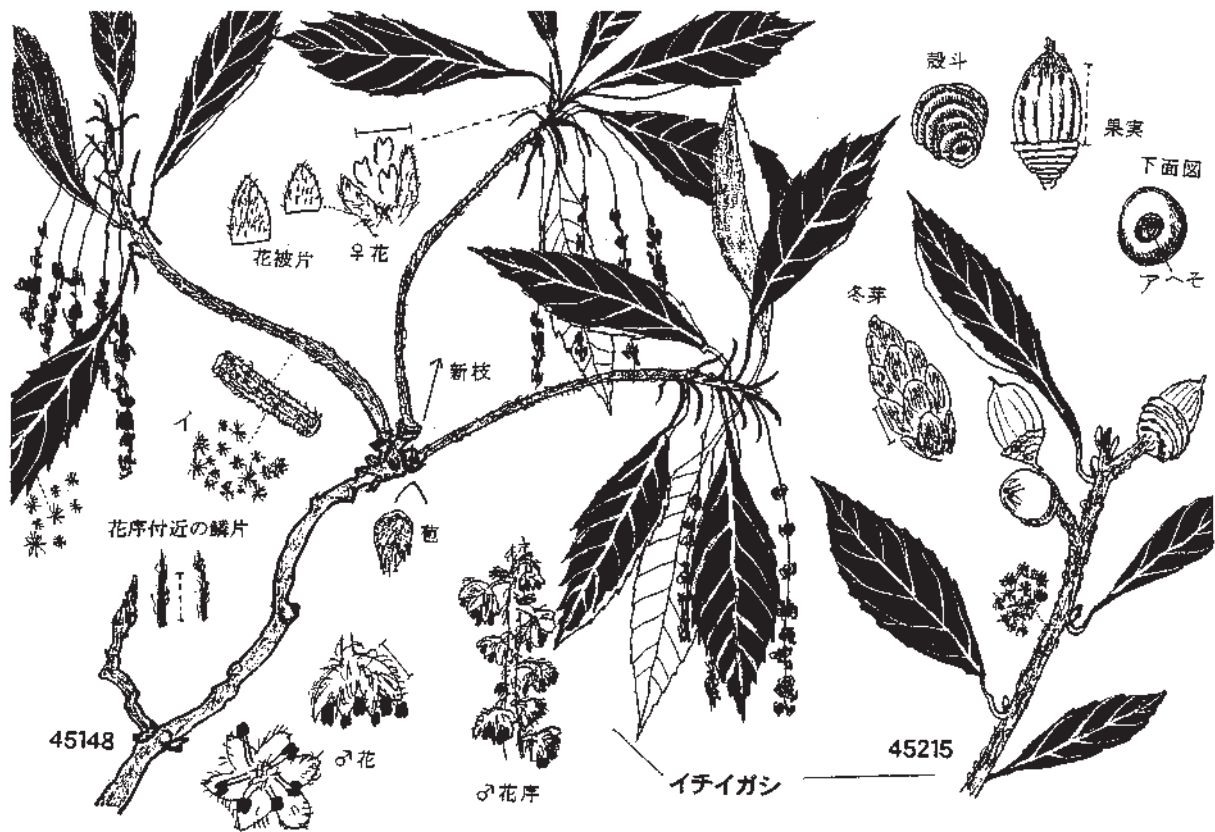


図9 イチイガシ(上) ツクバネガシ(下)



図10 カシワ

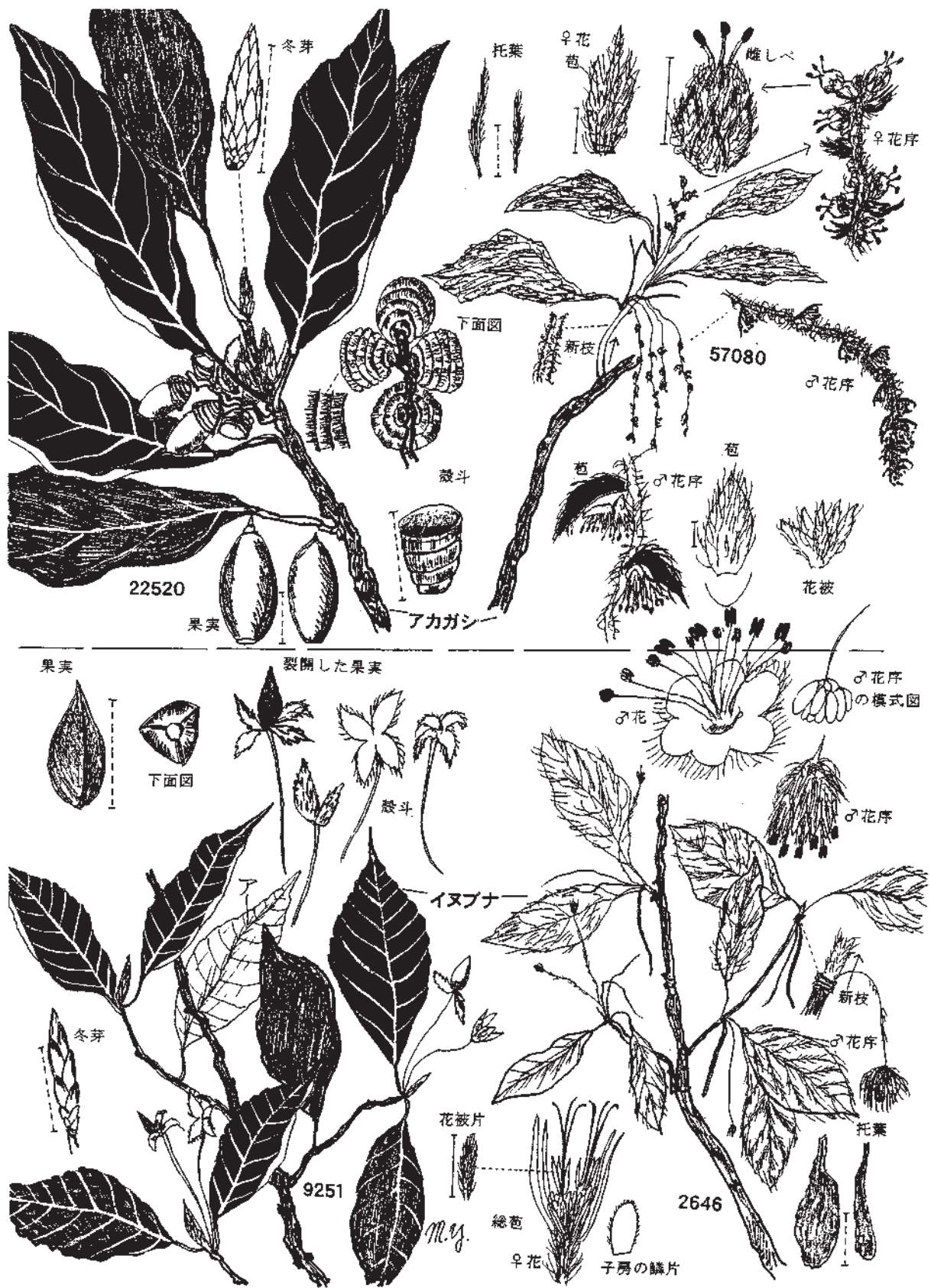


図11 アカガシ(上) イヌブナ(下)

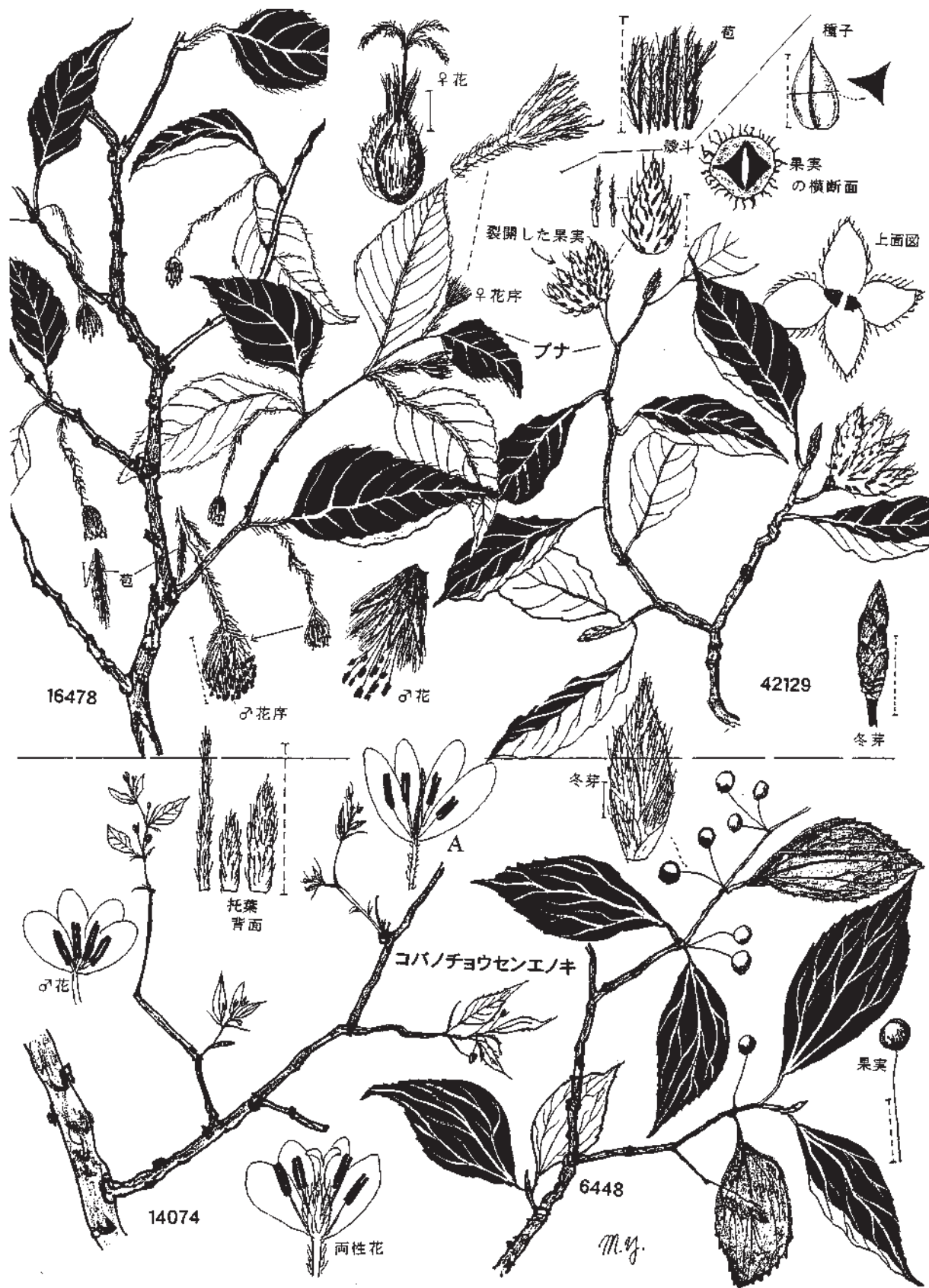


図12 ブナ(上) コバノチョウセンエノキ(下)